さけます関係研究開発等推進特別部会の開催

奈良 和俊（さけますセンター 業務推進部）

はじめに

平成 18 年 4 月のさけ・ます資源管理センターと水産総合研究センターとの統合に伴い，これまでさけ･ます資源管理センターが所管してきた「さけ・ます資源管理連絡会議」と水産総合研究センター北海道区水産研究所が所管する北海道ブロック推進会議の下部グループ「さけ・ます調査研究会」を併せた「さけます関係研究開発等推進特別部会（以下「さけます特別部会」という）」を設置した．さけます特別部会の設立主旨は，さけます類に関する研究開発等について，さけますセンターと関係行政･試験研究機関及び増殖団体等との情報交換を密にし，ニーズを把握して，相互の連携強化を図ることにより，さけます類に関する総合的な研究開発並びに個体群の維持のためのふ化放流を効率的かつ効果的に推進することにある．この「さけます特別部会」には，さけます類の研究開発に関する情報の交換と協力を試験研究機関等の間で密に行うため，「さけます研究部会」を設けた．

平成 18 年 8 月 4 日に札幌市において，水産庁，関係道県の行政･試験研究機関，大学，増殖団体，水産総合研究センター内関係部署等の 59 機関 200 名参加の下に，午前中は試験研究機関，大学等を参集した「さけます研究部会」，午後からは関係行政，増殖団体，漁業関係者等も加えた「さけます特別部会」を開催した．なお，後述のとおり，「さけます研究部会」において，サクラマスに関する研究を広域的な連携の下に実施する「サクラマス分科会」の設立提案が了承され，10 月 5 日に新潟市にて関係機関を参集して分科会を開催した．

さけます研究部会

最初に事務局からさけます研究部会に関する事前に集約したアンケート結果（開催時期，専門部会の設置，プロジェクト・共同研究の要望等）が報告され，それらの結果を踏まえた運営案が了承された．特に専門分科会については，要望の高いサクラマス分科会の設立提案書が承認されワークショップと合わせて開催することとした．なお，サケ等に関する分科会の立ち上げは今後の検討とした．

次に参加した試験研究機関・大学のうち 14 機関（道県は各 1 機関が代表して報告）から，平成 18年度さけます関連調査研究計画が報告された．また，水産総合研究センターにおける一般交付金プロジェクト研究のうち，さけます関連の「本州日本海域サクラマス資源再生プログラムの開発」，地域連携プロジェクト研究の「北方海域の資源管理・海域における生態系アプローチ」と「水産生物の移動･分散の場としての汽水環境評価に関する方法論的研究」について，それぞれ担当機関から紹介された．最後に今後実施して欲しいプロジェクト･共同研究に関するアンケート結果の補足として，提案機関から要望理由等の説明が行われた．

さけます特別部会

冒頭，さけますセンター福田所長の挨拶に続き，来賓を代表して水産庁増殖推進部の長尾研究指導課長から挨拶を頂いた．

午前中に開催された「さけます研究部会」の結果概要を報告した後に，各課題別に以下の研究成果等の情報が関係機関より提供された．

図1. 研究部会における討議風景．

図2. 特別部会で挨拶する水産庁長尾研究指導課長．

・ 北太平洋におけるサケ資源と海洋環境
・ サケ資源の回帰動向分析
・ 増殖効率化モデル事業の結果概要
・ 定置網における大型クラゲ漁業被害の軽減対策
・ 海洋における日本系さけます資源研究の総括（2001-2005 年）と今後の課題

資源情報として, 本年 6～7 月に中部北太平洋・ベーリング海において流網を用いたサケマスのモニタリング調査結果が北海道区水産研究所から報告された. また, 近年における我が国のサケ資源の回帰動向分析について, さけますセンターから報告を行った. 技術情報として, サケの適正な放流時期と放流サイズに関する7年間の実験放流結果の報告をさけますセンターから行った(本文「増殖効率化モデル事業」を参照). トピック情報として, 近年問題となっている秋サケ定置網における大型クラゲの防除技術について, 岩手県水産技術センターから紹介された. 研究情報として,「日本系さけます資源研究の総括（2001-2005 年）と今後の課題」と題し, 背景, オホーツク海におけるサケ幼稚魚の分布と資源量, 北太平洋におけるさけます類の冬期分布, ベーリング海におけるさけます国際共同調査, 今後の研究方向に関する報告等を北海道区水産研究所とさけますセンターの研究者が行い, これらに関して討議を行った. 最後に「さけます特別部会」及びさけますセンター業務に関して, 予め配布した調査票により 2 機関から出された要望と質問について担当部署から回答を行った. 要望としては,（社）本州鮭鱒増殖振興会から本州のさけます増殖事業に対する技術講習会及び現地指導会の継続実施が挙げられ, 本年 4 月の統合に伴い技術普及体制が変わったが, 日本海区水産研究所及び東北区水産研究所に新設されたさけます担当部署と連携して従来同様に協力を行うことを回答した. 質問としては, 茨城県の増殖団体からサケの南下経路の研究状況が挙げられ, 最近のデータ記録型標識によるサケの回遊行動調査結果を説明した.

サクラマス分科会等

水産庁, 関係道県, 水産総合研究センター内担当部署等 14 機関から 43 名が参加し, サクラマス分科会の開催要領の確認, 幹事県の選出, 各機関におけるサクラマス研究に関わる取り組み状況の紹介及び北部日本海ブロック水産試験場長会から出されたサクラマスに関する提言・要望について検討が行われた.

また, 分科会の終了後, 引き続き同メンバーにて,「サクラマスを取り巻く問題とサクラマス資源の復活を目指した方向性の検討」をテーマとした「サクラマスワークショップ」を翌日にわたり開催した. 最後の総合討論では資源再生に向けた研究の方向性と課題について意見交換が行われたが, 河川生活期における生息環境の悪化, 海面及び内水面での漁業対象である他遊漁による漁獲圧の増大, 放流魚の種苗性, 近縁種の交雑による遺伝的な撹乱等, 多くの問題を抱えており, 段階的に解決策を見いだす方策の必要性が望まれた.

図3. 特別部会における発表風景.

図4. サクラマスワークショップでの発表風景.

おわりに

さけますに関する関係行政・試験研究機関, 増殖団体, 漁業関係者等へ幅広く案内し, さけます特別部会を開催したが, 多くの関係機関から出席を頂き感謝申し上げます. 本年度は第 1 回目でもあり, 水産総合研究センターからの情報提供が主体となったが, 本年 4 月から開始している水産総合研究センターの第 2 期中期計画において, 研究開発等の成果の公表, 普及・利活用の促進については,「国民との双方向のコミュニケーションの確保」が重要な課題として掲げられており, 次年度以降, 多くの関係機関からの情報交換ができるよう, 会議の在り方等も含め検討したい.